

東京都中央区佃方言の 比喩語について

橋 幸 男

○はじめに

1. 調査対象地

位置：東京都中央区佃は、かつて佃島と呼ばれた地域。東京駅からは直線距離で、南東へ約2kmの位置にある。

歴史：江戸時代初期に大阪の佃村の漁師さんが移住して漁業を始めたのが地名の起り。佃煮の発祥の地としても知られる。

生業：漁業とそれに関連した商業に従事する人もいるが、勤め人が多くなっている。

交通：営団地下鉄有楽町線の月島駅が佃の南西部にある。また、東京駅八重洲南口へは都営バスで10分余り。

人口：佃1丁目は1,426人、佃2丁目は5,313人、佃3丁目は1,034人である。(平成4年1月1日現在)

世帯数：佃1丁目は635世帯、佃2丁目は2,115世帯、佃3丁目は467世帯。(平成4年1月1日現在)

その他：下町情緒あふれる生活が営まれているそばに、大川端リバーシティ21の超高層住宅群が林立している。

2. 調査年月日 1992年(平成4年)8月9日 午前8時45分～午後0時10分

3. 話者
高橋はつ子 女 1914年(大正3年)2月2日生まれ 78歳
小林 繁子 女 1919年(大正8年)12月16日生まれ 72歳
川井 滝江 女 1936年(昭和11年)8月19日生まれ 55歳

4. 調査者 橋 幸男

調査場所 話者それぞれの自宅。すなわち、佃1丁目の高橋はつ子宅、小林繁子宅、佃2丁目の川井滝江宅。一人ずつ調査をした。

5. 調査方法 調査票に基づいて尋ねる方法。

I 自然現象

- 1 日照り雨 キツネノ ヨメイリ(狐の嫁入り) <名詞> 中・老年層
ただし、一般には、日が照っているか否かの区別なく、ニワカアメ(俄雨)を多く使う。
- 2 入道雲 一般にはニュードグモ(入道雲)であるが、カミナリグモ(雷雲)とも言う。

4 霜柱 一般にはシモバシラ（霜柱）であるが、コーリバシラ（氷柱）とも言う。

その他に、①カンダチ（神立ち） 急に降ってきた雨。特に、雷を伴った雨＜名詞＞中・老年層

「クモガ デテ カンダチガ カカッテキタ。」

II 動物

12 青大将 ヤシキガミサマ（屋敷神様）＜名詞＞老年層

16 きつつき クマゲラ＜名詞＞老年層

17 せきれい カミサマノ トリ（神様の鳥）＜名詞＞老年層

カミサマノ オツカイノ トリ（神様のお使いの鳥）＜慣用句＝名詞＞老年層

その他に、①オボコ ボラの小さいもの＜名詞＞中・老年層

ボラの小さいものを、うぶな人に喩えて言う。

大きくなるにつれて、オボコ→イナ→ボラと名が変わる。

②ベンテンサマノ オツカイ（弁天様のお使い） 白い蛇＜名詞＞老年層

III 植物

20 とうもろこし トーキビ＜名詞＞若・中・老年層

21 いんげん豆 一般にはインゲン（隠元）であるが、その一種を、ドジョーインゲン（泥鰌隠元）と言う。

その他に、①イシャイラズ（医者要らず） アロエ（aloe）＜名詞＞老年層

IV 性向

34 動作の鈍い人 スローモーション＜名詞・形容動詞＞中・老年層

35 嘘つき センミツ（千三つ）＜名詞・形容動詞＞老年層

オーバーな言い方をする人のこと。また、その様子。したがって、言っていることに、いくらか真実はある。

36 ほらふき オープロシキ（大風呂敷）＜名詞・形容動詞＞老年層

「アノヒトワ オープロシキダネ。」

39 口先だけの人 ヘタナ カミユイサン（下手な髪結いさん）＜慣用句＝名詞＞老年層

髪を結う（ことしか できない）と、ものを言う（ことしか できない）とをかけた洒落。

「ヘタナ カミユイサンジャナイケド ユーバッカリダネ。」

- 41 のらりくらりと煮えきらない人 ケーコートーノヨーナ ヒト（蛍光灯のような人）
 <慣用句=名詞>中・老年層
 昔は使っていたが、今はほとんど使わない。
- 43 気むらな人 オテンキ（お天気）<名詞・形容動詞>中・老年層
 フーテンヤ（瘋癲屋）<名詞>老年層
 フーテンギミダ（瘋癲気味だ）<形容動詞>老年層
- 45 おてんば娘 オトコオンナ（男女）<名詞・形容動詞>老年層
 「オトコオンナミタイナ コダネー。」
- 49 家にこもって外出しない人 コタツノ ヌシ（炬燵の主）<慣用句=名詞>老年層
 特に、冬の時期に使う。
- 51 内弁慶 デンカオトコ（殿下男？ 天下男？）<名詞>老年層
 デンカサン（殿下さん？ 天下さん？）<名詞>老年層
 一般には、ウチベンケー（内弁慶）を多く使う。
- 53 妻に対して頭の上がない男 シリニ シカレテル オトコ（尻に敷かれている男）
 <慣用句=名詞>中・老年層
- 54 けち ニギリヤ（握り屋）<名詞>老年層
- その他に、
 ①クチハッチョー 口がよく動く様子<形容動詞>若・中・老年層
 ②クチハッチョー テハッチョー 口も手もよく動く様子 <形容動詞>
 若・中・老年層

V 食生活

- 58 砂糖味が薄い サトヤガ トーイ（砂糖屋が遠い）<慣用句=形容詞>老年層
 昔は、よく使っていた。
 「アソコワ サトヤガ トイカラネ。」→悪口である。
 自分の作ったものについてはあまり使わない。
 サトヤノマエ カケダシテ トーッタ（砂糖屋の前、駆けだして通った）
 <慣用句>老年層
- その逆の場合 サトヤニ コーコーシテルヨーナ モンダ（砂糖屋に孝行しているよ
 うなものだ）<慣用句>老年層
 砂糖味が濃い。
 サトーヤカラ イクラカ クルンジャナイカネ（砂糖屋から幾らか来る
 んじゃないかね）<慣用句>老年層
 砂糖屋からお礼をもらうほど多く使うという意味。
- 61 大酒飲み シュテンドージ（酒顔童子）<名詞>老年層
 ウワバミ<名詞>老年層

今は、あまり使わない。

- 62 酒に酔って顔が赤くなる キントキノ カジマイ (金時の火事見舞い) <名詞・形容動詞>老年層
サルミタイナ オトコ (猿みたいな男) <慣用句=名詞>老年層

VI 動作・様態

- 64 土砂降りの雨 シノツクヨーナ アメ (篠突くような雨) <慣用句=名詞> 中・老年層
- 65 ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま ドブネズミ (溝鼠) <名詞・形容動詞> 中・老年層
ヌレネズミ (濡れ鼠) <名詞・形容動詞> 中・老年層
- 66 服装がだらしないさま イギタナイ (衣汚い) <形容詞> 老年層
- 68 厚化粧をしている人 オメン カブツタヨーナ ヒト (お面被ったような人) <慣用句=名詞> 老年層
ノーメンミタイナ ヒト (能面みたいな人) <慣用句=名詞> 老年層
アノ ヒトワ カベヌリミタイダ (壁塗りみたいだ) <慣用句> 老年層
ヘラ モッテッテ ハガシテヤリタイ カオ (篋持って行って剥してやりたい顔) <慣用句=名詞> 老年層
ノミヤノ オンナ (飲み屋の女) <名詞> 老年層
◇この項は、話者によって、すべて異なる回答を得た。
- 69 出びたい ソコノ ジショ ウツクライーネ (そこの地所売ったら良いね) <慣用句> 老年層
- その他に
- ① ショーベンクサイ (若い子が) 未熟な様子だ <形容詞> 中・老年層
- ② ヘタナ モージャミタイナ ヒト (下手な亡者みたいな人) 連れを欲しがる人 <慣用句=名詞> 老年層
(あの世へ) 一人で行くのをいやがっている、ということの洒落。
- ③ キンギョノ フン (金魚の糞) 連れだっていく人 <名詞> 中・老年層
- ④ イマドヤキノ タヌキ (今戸焼きの狸) ユーモラスな人の顔 <名詞> 老年層
どんな顔立ちの人にも使うというわけにはいくまい。イメージが、狸と通い合う人に使うのだろう。
- ⑤ カモジャノ カンバン (髪屋の看板) 気が振れている人 <名詞> 老年層
毛が振れていることと、気が振れていることとをかけた洒落。

- ⑥ イヌボーサキノ ネギ (犬吠崎の葱) 下手な歌を歌う人。また、その歌<名詞>老年層
調子(銚子)はずれで、節のないもの、ということの洒落。
- ⑦ シンシューノ カキ (信州の柿) ものごとが 下手な状態のままである人<名詞>老年層
蒂にくっついて固くなる信州の柿という意味と、下手なまま固まってしまふという意味とを、「ヘタなりに」という言葉でかけた洒落。
- ⑧ ジョーダンワ カオダケニ シテヨ (冗談は顔だけにしてよ) 冗談は言わないでくれ<慣用句>老年層
- ⑨ タイシタモンダヨ イナゴノ ショーベン (大したものだよ蝗の小便) たいしたことだ<慣用句>老年層
- ⑩ ヨワッタサンノ ナリタサン (弱ったさんの成田山) 弱った状態である。困ったことだ<慣用句>老年層
弱ったさん(人名化したもの)と、成田山(仏閣)とを、「サン」という音で掛けた洒落。
- ヨワタッキワ タマゴニ ミルク (弱った時は卵にミルク) 弱った状態である<慣用句>老年層
弱むというのは体力的な場合も精神的な場合もあろうが、体が弱った時には卵を食べたりミルクを飲んだりして体力をつけようという、からかい半分の気持ちから生まれた言葉か。

○まとめ

佃は、海に面しているので植物語彙は少ない。動物語彙も、山野に住むものについては少ない。魚の名前などはとりたてて比喩表現があるわけではない。自然現象についても比喩表現は少ない。

人間関係についてのものが多いのは、下町の、人情味あふれる所であるからだろうか。比喩の方法としては、掛詞的なもの、発音類似をねらったものが多い。

佃1丁目の高橋はつ子さんと小林繁子さんとは、ともに生え抜きの方。ともにご養子さんを迎えられて、ずっと佃にお住まいである。高橋さんのご主人は、佃のことを『佃島漁師夜話』という本にまとめて出版しておられる。小林さんは、洒落っ気の多い方だが、独創的な比喩ではなく、やや落語の色合いを帯びているようにも思う。大勢の人々の口の上る比喩かもしれない。佃2丁目の川井さんは、ちょっとお若くて、しかも長野県生まれであるが、佃で36年を過ごしておられる。良き話者の方々に巡り会えたと感謝している。

(たちばなゆきお 兵庫県立明石西高等学校)